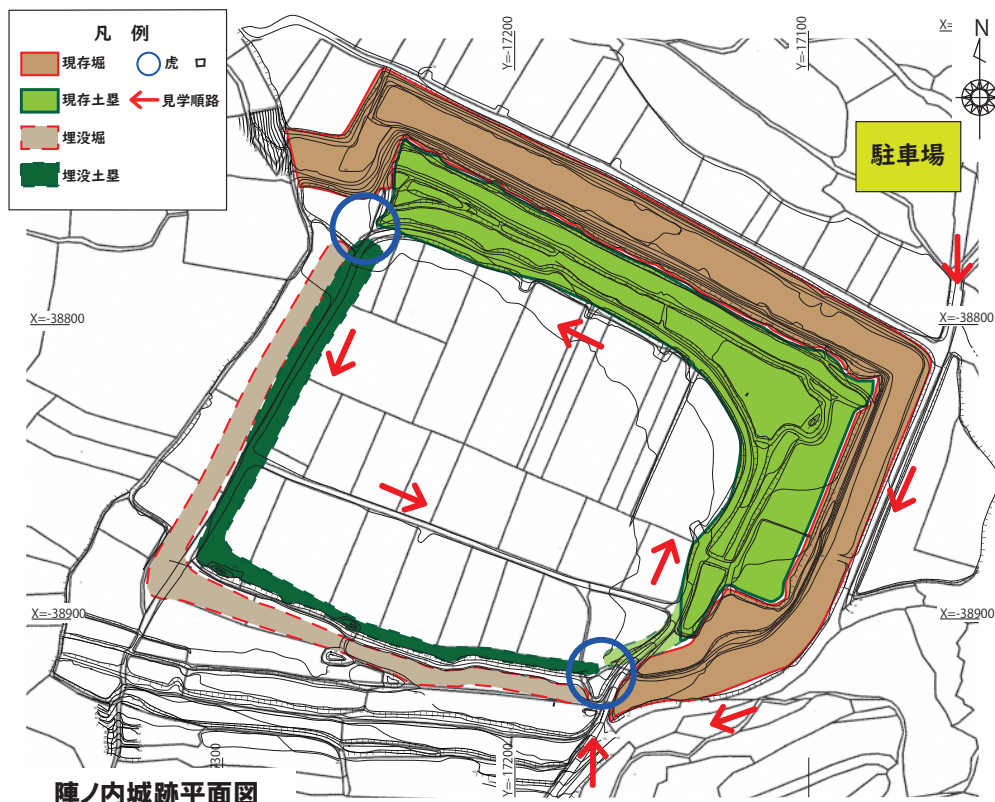
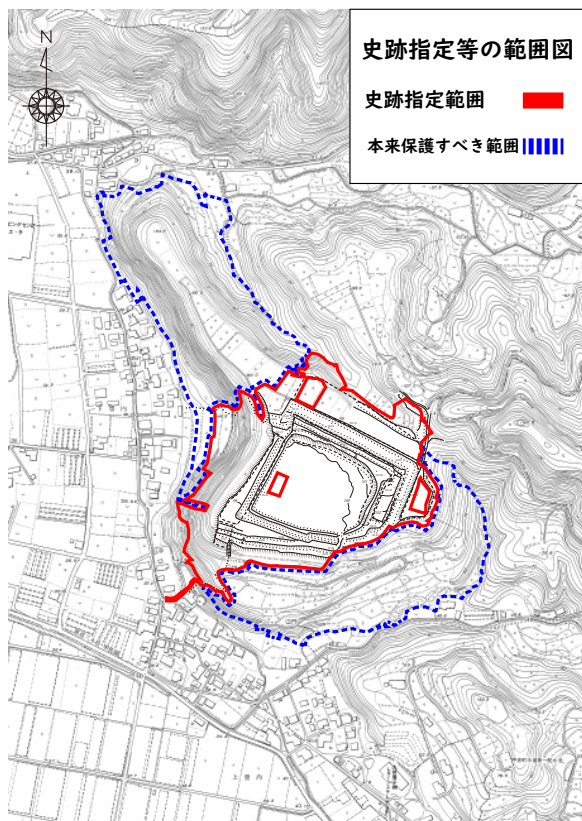




陣ノ内城跡と甲佐町



現地に遺る巨大な堀と土塁 1



陣ノ内城跡の概要（1）

陣ノ内城跡は、緑川と流域の平野を見下ろす標高約 100 m の平坦地上に立地しています。麓の比高（ひこう）は約 64 m になります。

城跡には方形（東西長：145m、南北長：132m、面積：19,000 m²）の平坦部があり、堀（幅：16～20m、深さ：約 5m）と堀の内側に沿った土塁（高さ：約 5m）が明瞭に残り、その規模は、発掘調査で確認された堀や土塁を含めると、東西 210m 以上、南北 190m 以上に及び、北西と南東に虎口（こぐち）をもつ方形の城跡であることが明らかになりました。

陣ノ内城跡は 17 世紀前半以前に築城された城郭の遺構（堀や土塁など）が良好な状態で保存されている遺跡として評価されています。

陣ノ内城跡の概要（2）

陣ノ内城跡は、江戸時代中期頃から阿蘇大宮司（あそだいぐうじ）の館跡（やかたあと）と伝えられ、昭和 55 年（1977）に甲佐町文化財に指定されました。

これまでの発掘調査や関連史料調査などの結果、陣ノ内城跡からは中世の輸入陶磁器なども出土しましたが、陣ノ内城跡が肥後国（ひごのくに）内で突出した規模を持つこと、大規模な堀と土塁で構成される城の構造は、豊臣系大名の城に共通することから、天正 16 年（1588）に肥後国に入部（にゅうぶ）した小西行長（こにしゆきなが）が、阿蘇氏の拠点が置かれた場所に築城したことが分かってきました。

陣ノ内城跡の価値

- ◆肥後国（ひごのくに）における中世城館（ちゅうせいじょうかん）のなかでも突出した規模を持ち、遺構（堀や土塁）の保存状態が良好。
- ◆緑川が平野部へ注ぎ込む陣ノ内城跡の所在する場所は、水陸交通の要衝（ようしょう）のため、長期間にわたって継続的に利用されてきた。
- ◆阿蘇氏から豊臣系大名による肥後国支配へと転換する時期の政治的、社会的状況を考える上で重要。

遺跡見学の際の注意

- ※遺跡内は全て民有地となっておりますので、耕作地への侵入はご遠慮願います。
- ※遺跡内は道幅が狭く、見学者車両の脱輪が多発しておりますので、お車は駐車場に停車し、徒歩にて見学をお願いします。